

# Solaris フリーソフトウェア導入手順書 -Samba 編-



---

**2010年8月**  
**富士通株式会社**

■ 商標について

- ・ Sun, Sun Microsystems, Sun ロゴ, Solaris および Solaris に関連する商標及びロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標または登録商標です。
- ・ すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc.の登録商標です。SPARC 商標のついた製品は米国 Sun Microsystems, Inc.のが開発したアーキテクチャに基づくものです。
- ・ SPARC64 は、米国 SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している同社の登録商標です。
- ・ UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・ そのほか、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

■ 留意事項

- ・ 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容は、細心の注意を払って制作致しましたが、本書中の誤字、情報の抜け、本書情報の使用に起因する運用結果に関しましては、責任を負いかねますので予めご了承願います。
- ・ 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- ・ 無断転載を禁じます。

## はじめに

本書は、Solaris 10 OS に標準インストールされている Samba を利用したファイルサーバの構築手順を記載した資料です。また、本書ではイントラネット内で利用することを想定した内容となっています。

構築環境は SPARC Enterprise を対象としています。本手順書に記載の設定値（ホスト名、IP アドレス等）は参考例です。構築時にはシステム環境に応じて読み替えてください。

## 目 次

事前注意事項 .....	5
1. Sambaとファイルサーバ .....	6
2. 構築前の各種確認 .....	7
3. Sambaの構築 .....	8
3-1. Sambaの構築手順 .....	9
3-2. Samba利用ユーザの作成 .....	12
3-3. サービスの起動 .....	13
3-4. 接続の確認 .....	14
4. SMFサービスの管理方法 .....	15
5. Samba各種設定 .....	16
5-1. smb.confパラメータ .....	16
5-2. 共有ディレクトリへ設定可能なパラメータ .....	22
5-3. 設定の反映 .....	23
6. 《参考》SWATの設定 .....	24
6-1. SWATとは .....	24
6-2. SWATの操作 .....	25
6-3. セッションの解説 .....	26

## 事前注意事項

本手順書で解説している手順は必須パッチを適用した Solaris OS 環境で実施してください。

必要なパッチが適用されていないと、Samba に関するコマンドが正常に実施できないなど不具合が発生することがあります。

- ・システムに適用されているパッチを調べる方法

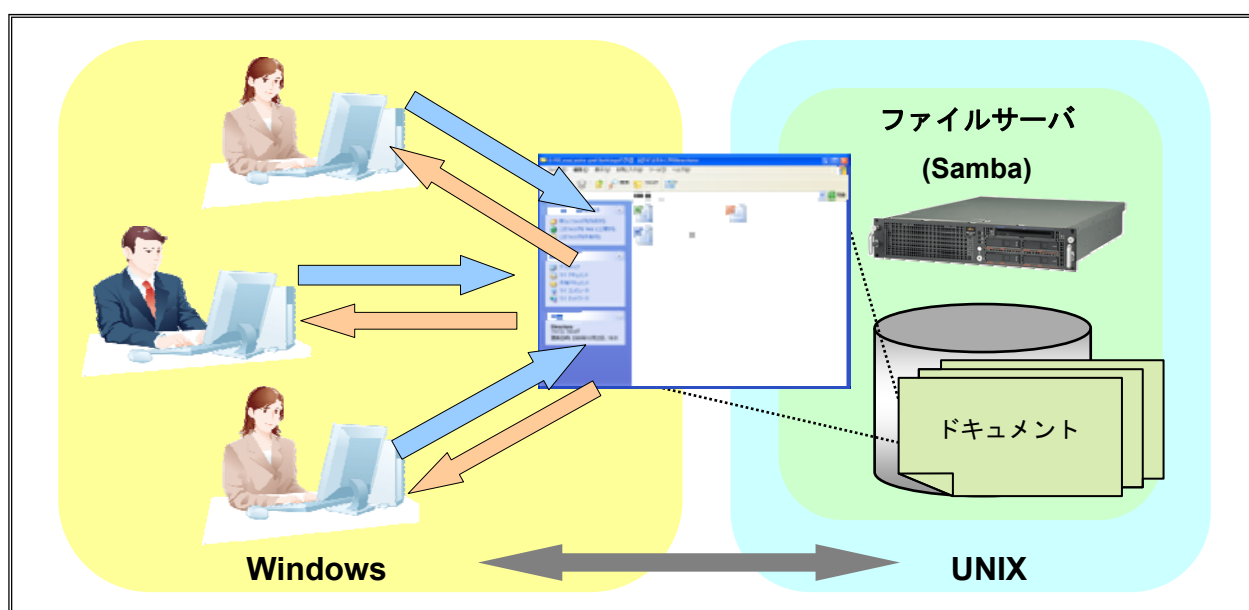
```
# showrev -p
```

※一覧が表示されますので、パッチ ID を調べます。

## 1. Sambaとファイルサーバ

Samba とは、UNIX と Windows や Linux 間でファイルの共有を行うことができるソフトウェアです。Windows や Linux から UNIX サーバのファイルにアクセスするためのサーバ機能と、UNIX サーバから Windows や Linux のファイルにアクセスするためのクライアント機能を持っています。また、ファイル共有の仕組みを用いて、プリンタ共有も行うことができます。（※本手順書ではプリンタ共有設定は対象外です）

図:イメージ 1-1



## 2. 構築前の各種確認

構築前に本手順書で使用する環境の確認を行います。

- Solaris 10 OS のバージョン
- Samba のパッケージの確認
- Samba のバージョン確認
- Samba サービスの状態確認

### 1) Solaris 10 OSのバージョンの確認

```
# cat /etc/release
Solaris 10 5/09 s10s_u7wos_08 SPARC
Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
Use is subject to license terms.
Assembled 30 March 2009
```

☞ Solaris 10 のバージョンによって標準でインストールされている Samba のバージョンが異なります。

2) Sambaのパッケージを確認します。下記のパッケージがインストールされていることを確認します。

- SUNWsmbac
- SUNWsmbar
- SUNWsmbau

```
# pkginfo | grep samba
system      SUNWsmbac      samba - A Windows SMB/CIFS fileserver for UNIX (client)
system      SUNWsmbar      samba - A Windows SMB/CIFS fileserver for UNIX (Root)
system      SUNWsmbau      samba - A Windows SMB/CIFS fileserver for UNIX (Usr)
```

3) Sambaのバージョンを確認します。

```
# /usr/sfw/sbin/smbd -V
Version 3.0.33
```

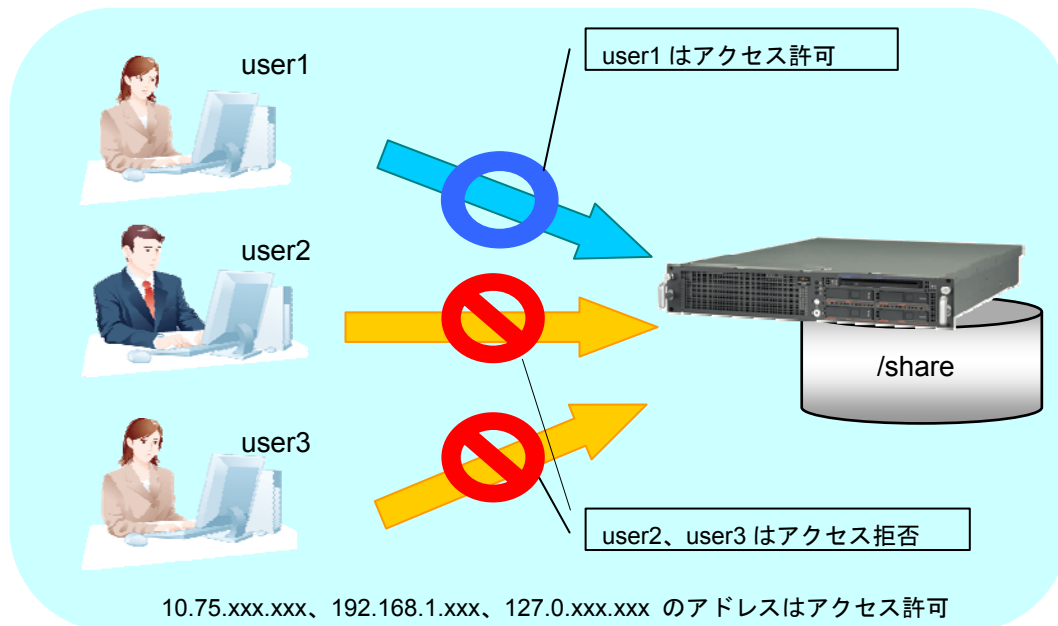
4) Sambaのサービスの状態を確認します。

```
# svcs samba
STATE      STIME      FMRI
disabled   10月_20    svc:/network/samba:default
```

☞ 初期状態は停止 (disabled) しています。

### 3. Sambaの構築

本手順で作成する Samba の環境定義は下記になります。



- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| ➤ 共有ディレクトリ          | /share                         |
| ➤ 共有ディレクトリの別名       | shares                         |
| ➤ アクセスを許可するネットワーク   | [10.75.],[192.168.1.],[127.0.] |
| ➤ 作成するユーザ           | user1,user2,user3              |
| ➤ 作成するグループ          | smbgroup,osgroup               |
| ➤ アクセスを許可するユーザ／グループ | user1/smbgroup                 |
| ➤ アクセスを拒否するユーザ／グループ | user3,user2/osgroup            |

👉 環境に応じて任意に設定してください。



### 3-1 .Sambaの構築手順

#### 1) 構成ファイルの作成

Samba の構成ファイルのサンプルファイル (/etc/sfw/smb.conf-example) をコピーして編集を行います。

```
# cp /etc/sfw/smb.conf-example /etc/sfw/smb.conf
```


#### 2) 構成ファイルの編集

```
# vi /etc/sfw/smb.conf
```

#### 2-1) workgroupの設定

「workgroup」の行にクライアントが所属しているワークグループを指定します。

```
25 # workgroup = NT-Domain-Name or Workgroup-Name, eg: MIDEARTH
26 workgroup = WORKGROUP
```

 左の数字はファイルの行数を表します。

#### 2-2) アクセス時の認証方法

「security」の行に共有ディレクトリへのアクセス時に使用する認証方法を指定します。


```
31 # Security mode. Defines in which mode Samba will operate. Possible
32 # values are share, user, server, domain and ads. Most people will want
33 # user level security. See the Samba-HOWTO-Collection for details.
34 security = user
```

設定可能な認証方法については、[4-1. Smb.confパラメータ 3\) security](#)を参照してください。

#### 2-3) アクセスを許可するネットワークの指定

「hosts allow」行の先頭に付加されている「;(セミコロン)」を削除し、アクセスを許可するネットワークを記載します

```
36 # This option is important for security. It allows you to restrict
37 # connections to machines which are on your local network. The
38 # following example restricts access to two C class networks and
39 # the "loopback" interface. For more examples of the syntax see
40 # the smb.conf man page
41 hosts allow = 192.168.1. 10.75. 127.0.
```

 セミコロンはコメントとして扱われます。

 複数ネットワークを設定する場合は、空白で区切ってください。

## 2-4) 共有ディレクトリの設定

最終行へ以下を追加します。

```
[shares]
    comment = sharesdir
    path = /share
    available = Yes
    guest ok = No
    invalid users = user3,@osgroup
    valid user = user1
    writable = Yes
```

- ☞ invalid で指定した user3 と osgroup に所属しているユーザ(user2)はアクセスが拒否されるよう指定します。
- ☞ グループを指定する場合は、先頭に"@"をつけます。
- ☞ 共有ディレクトリへのユーザの書き込みを許可させるために、「writable = Yes」を指定します。

各パラメータについては4-2. 共有ディレクトリへ設定可能なパラメータを参照してください。

## 3) 編集した構成ファイルのチェック

```
# /usr/sfw/bin/testparm
```

(実行例)

```
Load smb config files from /etc/sfw/smb.conf
Processing section "[homes]"
Processing section "[printers]"
Processing section "[shares]"
Unknown parameter encountered: "valid list"
Ignoring unknown parameter "valid list"
Loaded services file OK.
Server role: ROLE_STANDALONE
Press enter to see a dump of your service definitions
```

←Enter を押下します

```
[global]
    server string = Samba Server
    log file = /var/samba/log/log.%m
    max log size = 50
    dns proxy = No
    hosts allow = 192.168.1., 10.75., 127.0.
```

```
[homes]
    comment = Home Directories
    read only = No
    browseable = No
```

```
[printers]
    comment = All Printers
```

```
path = /var/spool/samba
printable = Yes
browseable = No
```

**[shares]**

```
comment = sharesdir
path = /share
invalid users = user3, @osgroup
valid users = user1
read only = No
```

☞ デフォルト値を使用している場合は標準出力へは出力されません。デフォルトの値から変更した場合にのみ出力されます。

## 4) 共有ディレクトリの作成

```
# mkdir /share
```

## 5) アクセス権の変更

ディレクトリのアクセス権を変更します。

```
# chmod 777 /share/
```

☞ アクセス権の設定は Samba 側の設定と Solaris OS 側の設定の両方が必要です。

### 3-2 .Samba利用ユーザの作成

OS上の一般ユーザを Samba に登録することで、Samba の利用が可能になります。

#### 1) グループの作成

```
# groupadd -g 1001 smbgroup
```

☛ 同様の手順でグループ ID を変えて osgroup も作成して下さい。

#### 2) Solaris OSの一般ユーザの作成

```
# mkdir /export/home
# useradd -u 1001 -g smbgroup -d /export/home/user1 -s /bin/sh -m user1
```

☛ ユーザ ID を変えて、所属するグループを osgroup に変更して、同様の手順で user2 と user3 も作成して下さい。

#### 3) パスワードの設定

```
# passwd user1
```

(実行例)

新しいパスワード: ←任意に設定

新しいパスワードを再入力してください:

passwd: user1 のパスワードが変更されました

#### 4) Sambaへのユーザ登録

下記コマンドを実行して Samba 利用ユーザを登録します。

```
# /usr/sfw/bin/pdbedit -a user1
```

(実行例)

```
new password: ←任意に設定
retype new password:
Unix username:      user1
NT username:
Account Flags:      [U          ]
User SID:           S-1-5-21-2555001371-3958696019-2657349435-3002
Primary Group SID:  S-1-5-21-2555001371-3958696019-2657349435-513
Full Name:
Home Directory:     ¥¥t2000-3¥user1
HomeDir Drive:
Logon Script:
Profile Path:       ¥¥t2000-3¥user1¥profile
Domain:             T2000-3
Account desc:
Workstations:
Munged dial:
Logon time:         0
```

```

Logoff time:          never
Kickoff time:        never
Password last set:   (木), 29 10 月 2009 15:26:45 JST
Password can change: (木), 29 10 月 2009 15:26:45 JST
Password must change: never
Last bad password   : 0
Bad password count  : 0
Logon hours        : FFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFF

```

☞ 初期状態では、Samba のパスワードは/etc/sfw/private/smbpasswd で管理されています。

#### Account Flags の解説

Flag	意味
U	一般ユーザを意味します。
N	パスワードを持っていないことを意味します。
D	無効なアカウントであることを意味します。
W	"Workstation Trust"アカウントであることを意味します。
L	アカウントがロックされていることを意味します。

#### 5) Samba登録ユーザの確認

```

# /usr/sfw/bin/pdbedit -L
user1:1001:
user2:1002:
user3:1003:

```

#### 《参考》 Samba に登録したユーザの削除

```
# /usr/sfw/bin/pdbedit -x -u user3
```

#### 《参考》 Samba に登録したユーザのパスワード変更

```
# /usr/sfw/bin/smbpasswd user1
```

### 3-3. サービスの起動

1) Sambaのサービスを起動します。

```
# svcadm enable svc:/network/samba:default
```

2) Sambaのサービスを確認します。

```
# svcs svc:/network/samba:default
STATE          STIME          FMRI
```

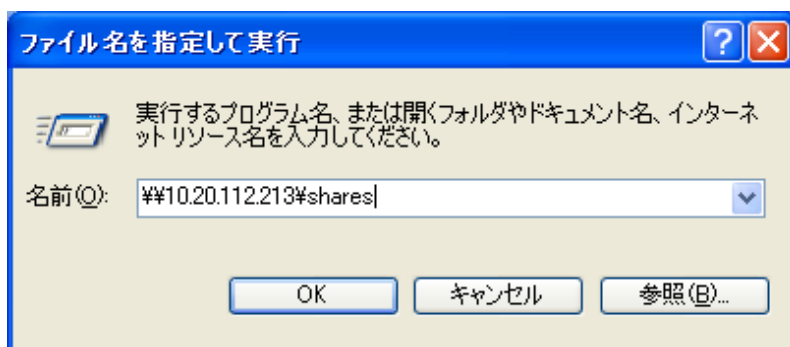
online	19:39:13 svc:/network/samba:default
--------	-------------------------------------

☞ STATE が「online」になっていること。

### 3-4.接続の確認

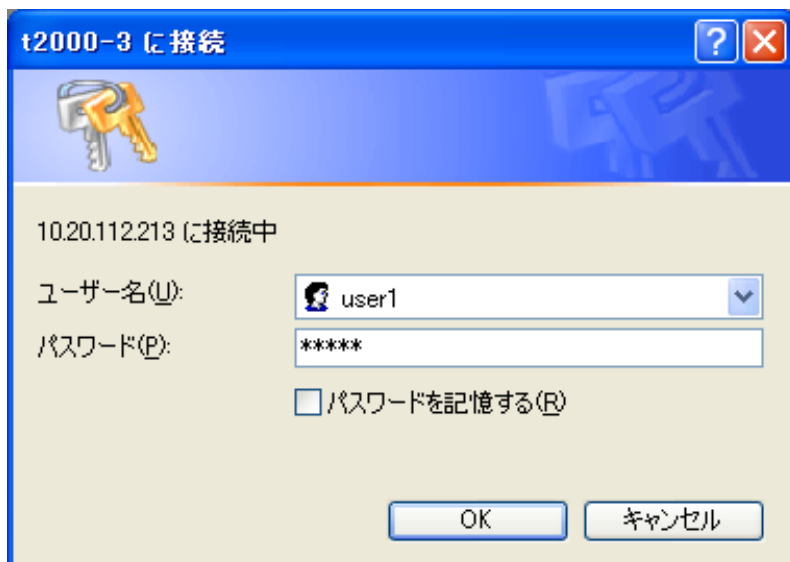
#### 1) クライアントからの接続確認

Windows クライアントからの接続例 : [スタート]→[ファイル名を指定して実行]を選択し、「 $\$$ ファイルサーバの IP アドレス $\$$ 共有ディレクトリ名」を入力します。



#### 2) ユーザ名とパスワードの入力

Samba に登録したユーザ名とパスワードを入力します。



☞ user2 と user3 でも同様に、アクセスを行って下さい。

☞ user2 ではグループでアクセスを拒否され、user3 ではユーザ名でアクセスを拒否されます。

## 4. SMFサービスの管理方法

ここでは SMF 対応した Samba のサービス管理の方法についてまとめています。必要に応じて参照して下さい。

### 1) サービスの状態を確認する方法

```
# svcs svc:/network/samba:default
STATE      STIME      FMRI
online     9:01:35   svc:/network/samba:default
```

- STATE の主な表示は「online」（起動）、「disable」（停止）となります。
- サービス名は省略形[samba]で指定することも可能です。以下のコマンドも同様です。

### 2) サービスを停止する方法

```
# svcadm disable svc:/network/samba:default
```

### 3) サービスを再起動する方法

```
# svcadm restart svc:/network/samba:default
```

### 4) サービスを起動する方法

```
# svcadm enable svc:/network/samba:default
```

## 5. Samba各種設定

### 5-1 .smb.confパラメータ

Samba の構成ファイル/etc/sfw/smb.conf 内のパラメータを編集することで、各種設定を行うことができます。以下に、/etc/sfw/smb.conf のパラメータについて解説します。必要なパラメータの設定を行ってください。

#### 1) workgroup

Samba の属する(あるいは、クライアントへ応答する)windows ワークグループ名もしくは、windows ドメイン名を指定します。

```

22 #===== Global Settings =====
23 [global]
24
25 # workgroup = NT-Domain-Name or Workgroup-Name, eg: MIDEARTH
26     workgroup = MYGROUP

```

#### 2) server string

Windows 等でブラウジングした場合には表示される Samba サーバのコメントを指定します。

```

28 # server string is the equivalent of the NT Description field
29     server string = Samba Server

```



この部分に Samba サーバのコメントが表示されます。

#### 3) security

共有リソースにアクセスする際のセキュリティーモードの設定項目です。セキュリティーモードは、以下の5種類があります。

➤ security=user(ユーザ認証モード)

ユーザが Samba サーバを利用する場合、Solaris 上でのアカウントと Samba 接続用のパス



ワードが必要になります。

➤ security=domain(ドメイン認証モード)

ネットワークの中に既に NT ドメインがあり、そこに Samba サーバを追加する場合に指定します。ユーザ認証は、NT ドメインが行いますが、接続するためのアカウントを Solaris 側で作成する必要があります。

➤ security=server(サーバ認証モード)

ネットワーク中に既に Samba サーバや windows によるワークグループがある場合、そこに新設 Samba サーバを追加する場合に選択します。

➤ security=ads(Active Directory ドメイン認証モード)

ネットワークの中に既に Active Directory ドメインがあり、そこに Samba サーバを追加する場合に指定します。ユーザ認証は、Active Directory が行いますが、接続するためのアカウントを Solaris 側で作成する必要があります。

➤ security=share(共有認証モード)

ユーザがパスワードだけで Samba サーバを利用できるモードです。

☞ share はセキュリティ上パスワードのみでアクセス出来てしまうため非推奨です。

```
31 # Security mode. Defines in which mode Samba will operate. Possible
32 # values are share, user, server, domain and ads. Most people will want
33 # user level security. See the Samba-HOWTO-Collection for details.
34 security = user
```

#### 4) hosts allow

アクセスを許可するホストを指定します。ネットワークを指定する事もできます。サブネットマスクを入れる場合は、 202.11.98.0/255.255.255.224 のように指定します。

```
36 # This option is important for security. It allows you to restrict
37 # connections to machines which are on your local network. The
38 # following example restricts access to two C class networks and
39 # the "loopback" interface. For more examples of the syntax see
40 # the smb.conf man page
41 hosts allow = 192.168.1. 192.168.2. 127.
```

☞ hosts deny を用いて、アクセスを拒否する書き方と併用もできます。

#### 5) guest account

guest アカウントが必要な場合は、コメントをはずします。また、nobody 以外を指定する場合は /etc/passwd に指定したアカウントを登録する必要があります。

```
60 # Uncomment this if you want a guest account, you must add this to /etc/passwd
61 # otherwise the user "nobody" is used
62 guest account = pcguest
```

## 6) log file

ログファイルの場所を指定します。クライアントやユーザごとにログを取得することができます。マシン毎にログを取得する場合は「%m」を付加します。ユーザ毎にログを取得する場合は「%u」を付加します。

```
64 # this tells Samba to use a separate log file for each machine
65 # that connects
66     log file = /var/samba/log/log.%m
```

## 7) max log size

ログファイルのサイズ上限を指定します。

```
68 # Put a capping on the size of the log files (in Kb).
69     max log size = 50
```

 ログファイルのサイズはKB単位で指定します。

## 8) password server

security = server または、security = domain の場合は、password server を設定します。

```
71 # Use password server option only with security = server
72 # The argument list may include:
73 #     password server = My_PDC_Name [My_BDC_Name] [My_Next_BDC_Name]
74 # or to auto-locate the domain controller/s
75 #     password server = *
76     password server = <NT-Server-Name>
```

## 9) realm

security = ads の場合は、realm を設定します。Samba が行うユーザ名、パスワードの認証をすべてを Active Directory サーバに行わせる場合に Active Directory ドメイン名 (Kerberos Realm 名) を指定します。

```
78 # Use the realm option only with security = ads
79 # Specifies the Active Directory realm the host is part of
80     realm = <Active Directory ドメイン名>
```

workgroup には realm で指定した Active Directory ドメインの NetBIOS 名を指定します。

```
25 # workgroup = NT-Domain-Name or Workgroup-Name, eg: MIDEARTH
26     workgroup = <NetBIOS 名>
```

 Active Directory ドメイン名、NetBIOS 名は大文字で設定します。

## 1 0) passdb backend

パスワード認証データベースを指定します。

- smbpasswd 従来の方式（ファイルのパス名を指定可能）
- tdbsam TDB 形式のデータベース（ファイルのパス名を指定）
- ldapsam LDAP サーバ（LDAP サーバの URL を指定）

```
82 # Backend to store user information in. New installations should
83 # use either tdbsam or ldapsam. smbpasswd is available for backwards
84 # compatibility. tdbsam requires no further configuration.
85     passdb backend = smbpasswd
```

☞ デフォルトで使用されているのは smbpasswd です。

## 1 1) include

別の定義ファイルを参照して読み込ませ指定することが可能です。

```
87 # Using the following line enables you to customise your configuration
88 # on a per machine basis. The %m gets replaced with the netbios name
89 # of the machine that is connecting.
90 # Note: Consider carefully the location in the configuration file of
91 #     this line. The included file is read at that point.
92     include = /usr/sfw/lib/smb.conf.%m
```

## 1 2) interfaces

Samba で使用するインターフェースを指定します。

```
94 # Configure Samba to use multiple interfaces
95 # If you have multiple network interfaces then you must list them
96 # here. See the man page for details.
97     interfaces = 192.168.12.2/24 192.168.13.2/24
```

## 1 3) local master

マスタブラウザの制御を行います。Samba をネットワーク上でマスタブラウザとしたくない場合は、local master = no を設定してください。

```
99 # Browser Control Options:
100 # set local master to no if you don't want Samba to become a master
101 # browser on your network. Otherwise the normal election rules apply
102     local master = no
```

## 1 4) os level

マスタブラウザ選択時の優先順位を指定します。

```
104 # OS Level determines the precedence of this server in master browser
```

```
105 # elections. The default value should be reasonable
106     os level = 33
```

#### 1 5) domain master

ドメインマスタブラウザとなるように設定します。これにより、Samba はサブネット間のブラウザリストの取得を行うようになります。

```
108 # Domain Master specifies Samba to be the Domain Master Browser. This
109 # allows Samba to collate browse lists between subnets. Don't use this
110 # if you already have a Windows NT domain controller doing this job
111     domain master = yes
```

#### 1 6) preferred master

マスタブラウザとして動作するための優先権を指定します。ドメインマスタブラウザになることを保証するために、domain master = yes の設定と連携しての使用が推奨されます。

```
113 # Preferred Master causes Samba to force a local browser election on startup
114 # and gives it a slightly higher chance of winning the election
115     preferred master = yes
```

#### 1 7) domain logons

Windows 9X に対するドメインログオンサーバとして機能するように設定します。また、NT ドメイン互換のドメインコントローラとして機能します。

```
117 # Enable this if you want Samba to be a domain logon server for
118 # Windows95 workstations.
119     domain logons = yes
```

#### 1 8) logon script

ユーザのログインが成功した際にダウンロードして実行される、ファイルを指定します。

```
121 # if you enable domain logons then you may want a per-machine or
122 # per user logon script
123 # run a specific logon batch file per workstation (machine)
124     logon script = %m.bat
125 # run a specific logon batch file per username
126     logon script = %U.bat
```

## 1 9) logon path

Samba がログオンサーバとして構成された場合に指定します。移動プロファイルを保存する場所を指定します。

```
128 # Where to store roving profiles (only for Win95 and WinNT)
129 #      %L substitutes for this servers netbios name, %U is username
130 #      You must uncomment the [Profiles] share below
131      logon path = %%LProfiles%U
```

Windows 9X、Windows NT のみ有効です。

## 2 0) wins support

Samba のプロセスを WINS サーバとして機能させるかを制御します。

```
133 # Windows Internet Name Serving Support Section:
134 # WINS Support - Tells the NMBD component of Samba to enable it's WINS Server
135      wins support = yes
```

## 2 1) wins server

WINS サーバの IP アドレスを指定します。

```
137 # WINS Server - Tells the NMBD components of Samba to be a WINS Client
138 #      Note: Samba can be either a WINS Server, or a WINS Client, but NOT both
139      wins server = w.x.y.z
```

## 2 2) wins proxy

名前解決の応答を指定します。WINS 機能のないクライアントからの名前解決の要求に対して応答するように指定します。

```
141 # WINS Proxy - Tells Samba to answer name resolution queries on
142 # behalf of a non WINS capable client, for this to work there must be
143 # at least one WINS Server on the network. The default is NO.
144      wins proxy = yes
```

## 2 3) dns proxy

NetBIOS 名を DNS 経由で解決するか否かを指定します。

```
146 # DNS Proxy - tells Samba whether or not to try to resolve NetBIOS names
147 # via DNS nslookups. The default is NO.
148      dns proxy = no
```

## 5-2.共有ディレクトリへ設定可能なパラメータ

パラメータ	意味
<b>Base Options</b>	
comment	クライアントで表示されるコメントの設定をします
path	共有ディレクトリの絶対パスを指定します
<b>Security Options</b>	
invalid users	共有ディレクトリへのアクセスを拒否するユーザ・グループを指定します
valid users	共有ディレクトリへのアクセスを許可するユーザ・グループを指定します
admin users	指定したユーザは、Samba へのアクセス時に共有ディレクトリ上でスーパーユーザの権限が与えられます
read list	指定されたユーザ・グループは参照のみ許可されます
write list	指定されたユーザ・グループは書込が許可されます
force user	Samba にアクセスした際に指定されたユーザでのアクセスとなります
force group	Samba にアクセスした際に指定されたグループでのアクセスとなります
read only	読み取り専用の指定ができます
create mask	Samba によって作成されるファイルのパーミッションを指定します
force create mode	強制的にファイルに与えるアクセス権を指定します
directory mask	Samba によって作成されるフォルダのパーミッションを指定します
force directory mode	強制的にディレクトリに与えるアクセス権を指定します
inherit permissions	上位ディレクトリのアクセス権を継承する設定を行います create mask、force create mode、directory mask、force directory mode が指定されている場合でも本設定が優先されます
guest only	全てのファイル操作を guest ユーザで行うかを指定します guest ok で許可を指定した場合のみ有効です
guest ok	guest ユーザでのアクセスの許可/拒否を指定します
only user	該当ユーザ以外のアクセスは許可しない設定を行います
hosts allow	アクセスを許可するエントリを指定します [global]セクションで hosts allow を指定した場合は、[global]セクションで指定した hosts allow を優先します
hosts deny	アクセスを拒否するエントリを指定します [global]セクションで hosts deny を指定した場合は、[global]セクションで指定した hosts deny を優先します
<b>Browse Options</b>	
browseable	ブラウズリスト中に現れる利用可能な共有の一覧に共有を表示させるか

	どうかを指定します
<b>EventLog Options</b>	
available	共有ディレクトリの有効/無効を指定します
volume	ボリュームラベルを設定します
fstype	サーバがクライアントに返すファイルシステムのタイプを指定します
delete readonly	読み取り専用ファイルの削除規制の設定
<b>VFS module options</b>	
vfs object	VFS (Virtual File System) モジュールを指定します
msdfs root	DFS ルート提供の有無を設定します

### 5-3 .設定の反映

#### 1) 編集した構成ファイルのチェック

```
# /usr/sfw/bin/testparm
```

#### 2) サービスの再起動

```
# svcadm restart svc:/network/samba:default
```

#### 3) サービスの状態確認


```
# svcs svc:/network/samba:default
```

## 6. 《参考》SWATの設定

### 6-1.SWATとは

Samba には、Web ブラウザ経由で管理を行うツール「SWAT(Samba Web Administration Tool)」が標準で用意されています。Samba の起動／停止から各種設定の変更までの全てを Web ブラウザ上で行うことができます。


SWAT を利用するには、Samba が稼動しているサーバの 901 番ポートに Web ブラウザでアクセスします。

 /etc/sfw/smb.conf ファイルを直接編集する方法と SWAT を使った設定方法を併用することは推奨しません。SWAT での設定は、/etc/sfw/smb.conf へ全て上書きされるため、コメント部分も上書きしてしまいます。

#### 1) サービスポートの確認

SWAT のサービスポートが設定されていることを確認します。

```
# cat /etc/services | grep 901
swat          901/tcp      # Samba Web Adm.Tool
```

 SWAT のサービスポートが設定されていない場合は、/etc/services に追加してください。

#### 2) SWATの確認

SWAT は inetd が管理する SMF サービスなので、inetd 管理コマンド (inetadm) や SMF 管理コマンドで管理することができます。

```
# inetadm | grep swat
disabled    disabled    svc:/network/swat:default

# svcs svc:/network/swat:default
STATE      STIME      FMRI
disabled   15:45:44   svc:/network/swat:default
```

#### 3) サービスの起動

```
# inetadm -e svc:/network/swat:default
```

#### 4) サービスの確認

```
# inetadm | grep swat
enabled     online      svc:/network/swat:default      ←「enabled」を確認

# svcs svc:/network/swat:default
STATE      STIME      FMRI
online     16:00:07   svc:/network/swat:default      ←「online」を確認
```



## 6-2 .SWATの操作

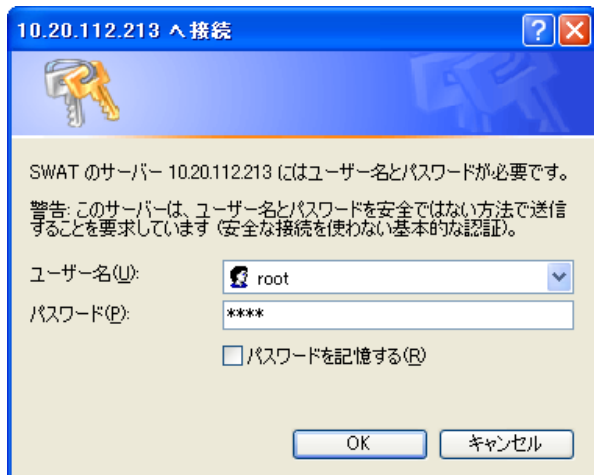
### 1) SWATへのログイン

SWATへのアクセスは、Webブラウザから行います。URLに下記を入力してアクセスします。[http://ホスト名\[or IPアドレス\]:901](http://ホスト名[or IPアドレス]:901)

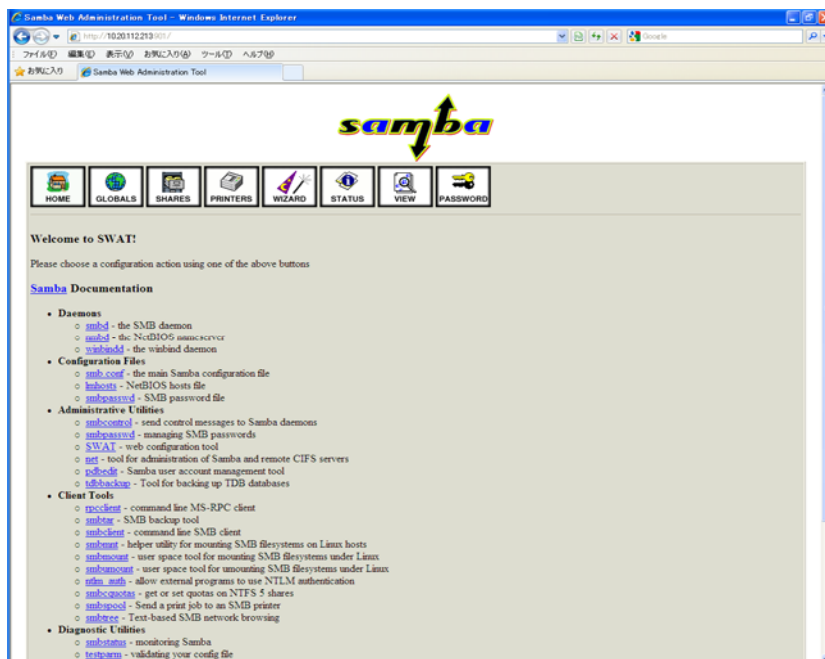
### 2) ユーザ認証

アクセスを行うとユーザ認証のポップアップが表示されます。SWAT へのログインはスーパーユーザで行います。

 一般ユーザでもログイン可能ですが、設定可能な項目は異なります。



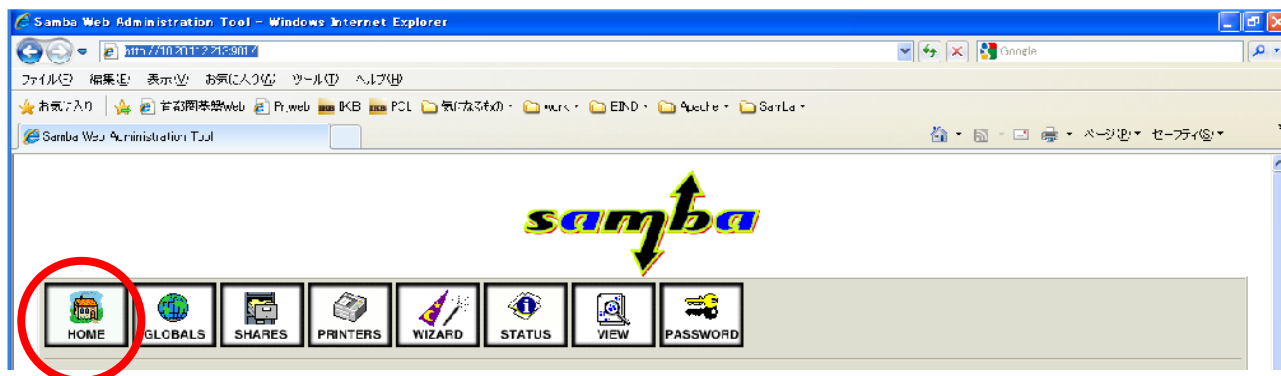
SWAT のログイン画面 (スーパーユーザ)



### 6-3.セッションの解説

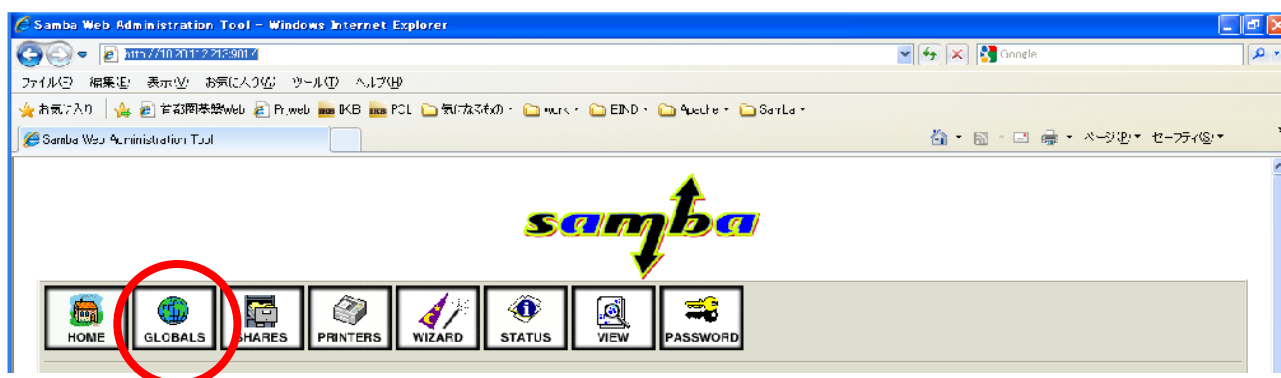
#### ➤ HOME セッション

Samba のドキュメント紹介ページです。技術資料などを参照することができます。



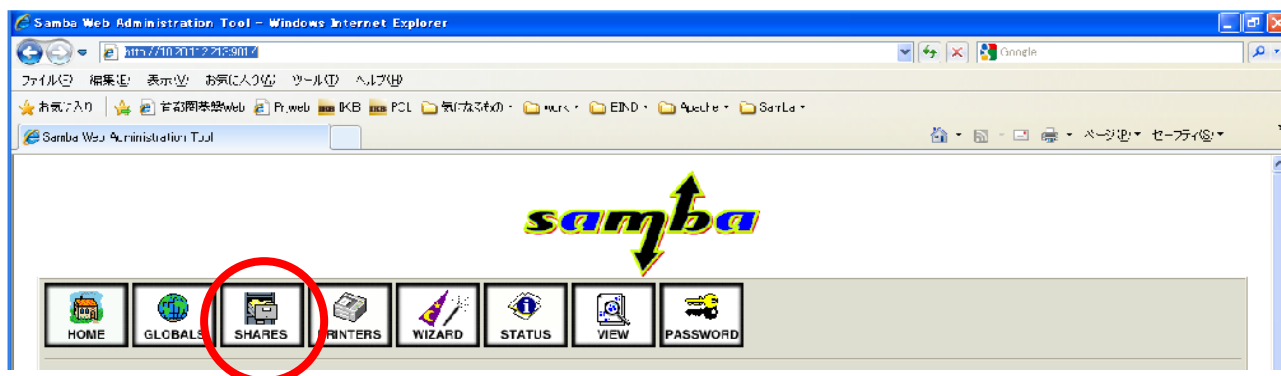
#### ➤ GLOBALS セッション

/etc/sfm/smb.conf の Global Settings 部分などセキュリティ関連のパラメータの設定も行えます。



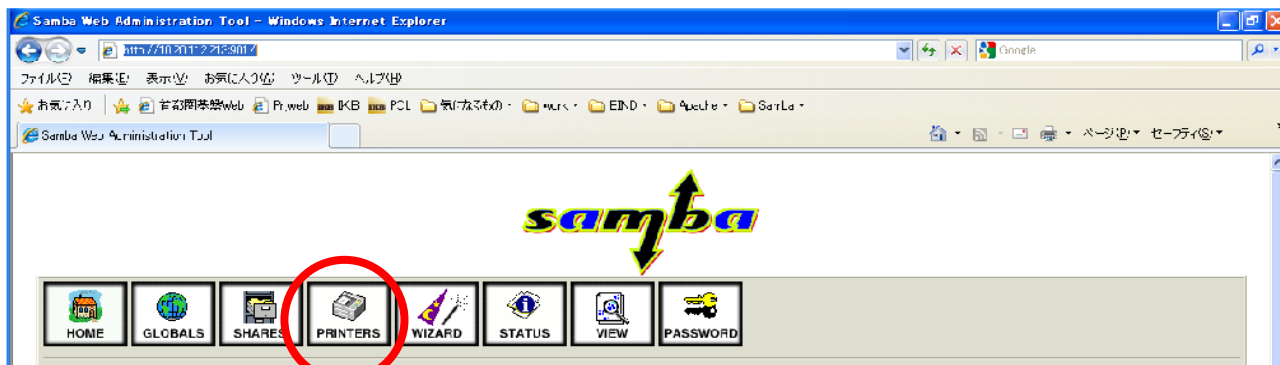
#### ➤ SHARES セッション

共有ディレクトリの作成・編集・削除などの管理が行えます。



➤ PRINTERS セッション

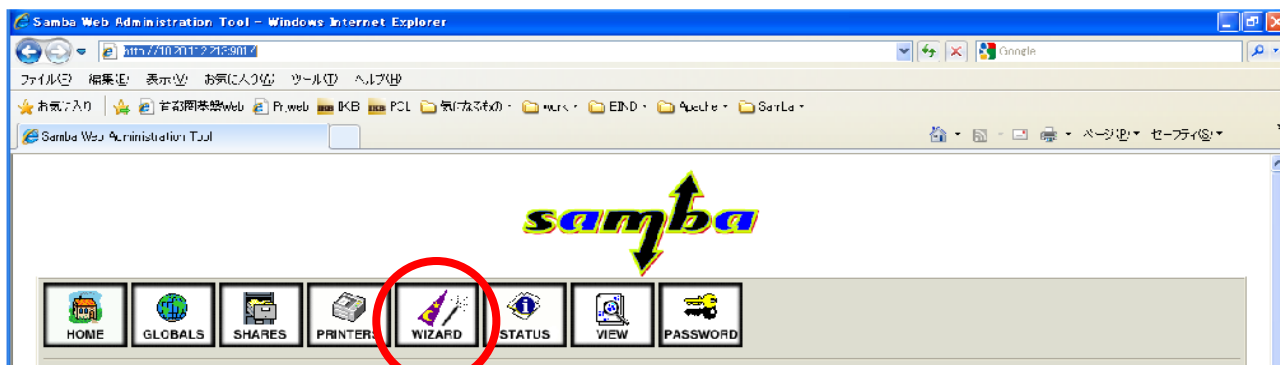
プリンタ共有全体を提供する[printers]セクションの設定が行えます。



👉 本手順では、プリンタ共有設定はおこないません。

➤ WIZARD セッション

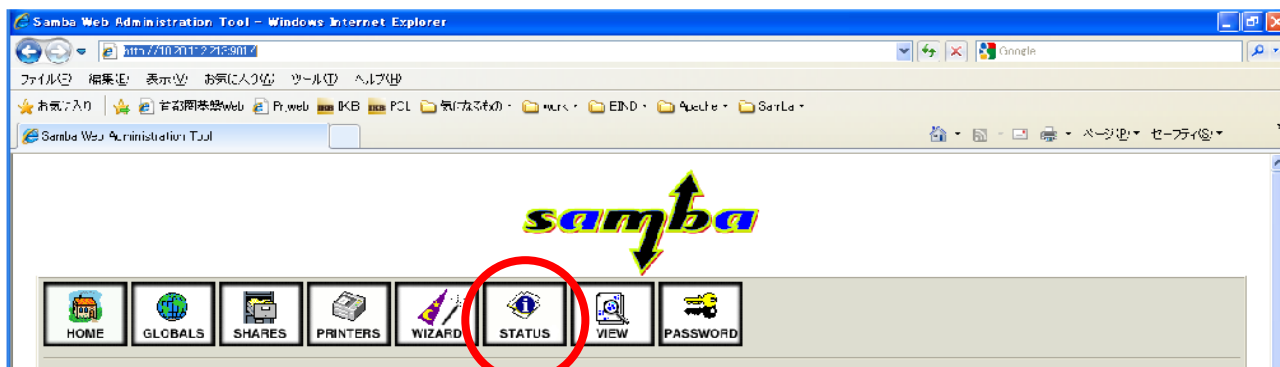
Samba の構成情報の設定が行えます。



➤ STATUS セッション

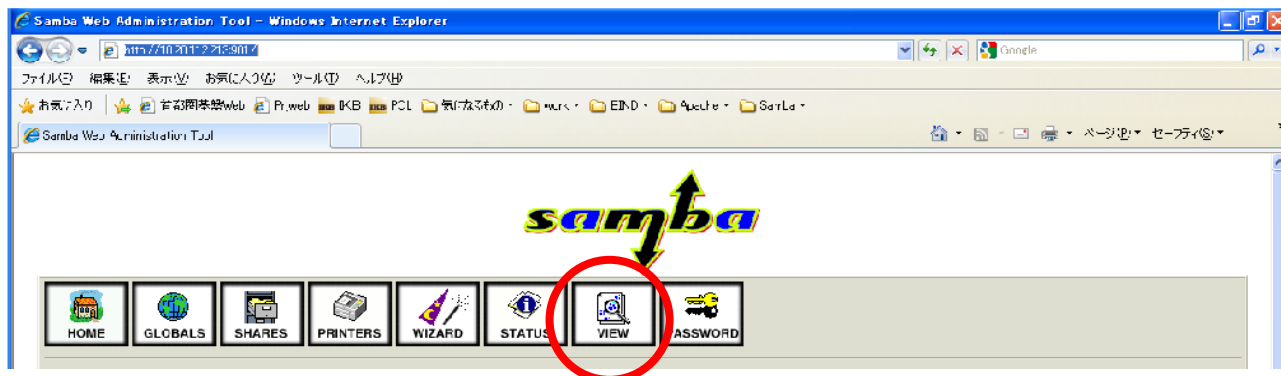
Samba プロセスの起動・停止・再起動などの管理が行えます。

誰が共有ファイルにアクセスしているかを確認したり、ユーザのセッションを強制切断したりすることが可能です。



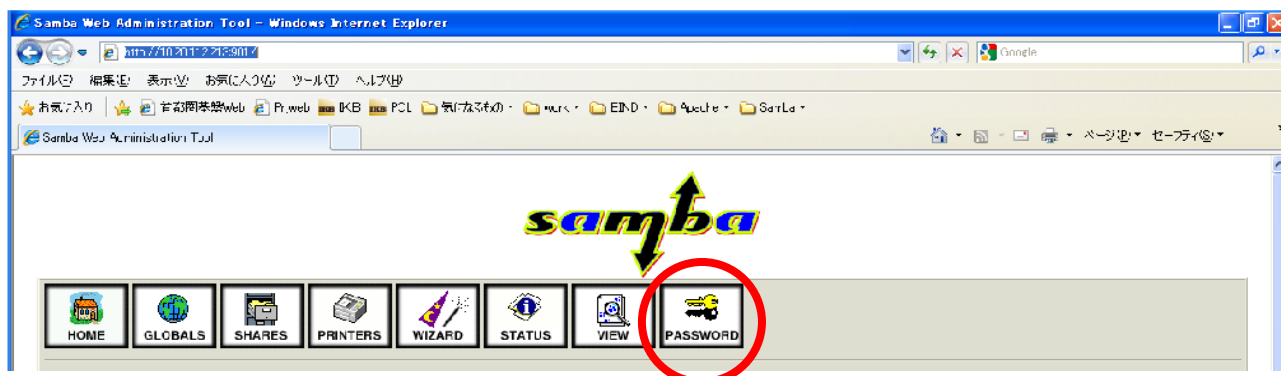
## ➤ VIEW セッション

構成ファイル(/etc/sfw/smb.conf)の内容を表示します。



## ➤ PASSWORD セッション

ユーザの追加・削除、パスワードの変更などを行えます。



- 一般ユーザで SWAT にログインした場合は、HOME、STATUS、VIEW、PASSWORD のセッションのみ限定的に利用可能です。

以上、『Solaris フリーソフトウェア導入手順書 -Samba 編-』終了

